

平成21年度卒業式告辞

卒業おめでとう。皆さんを指導された先生方や皆さんを支えてこられた御家族の方々とごいっしょに皆さんの門出をお祝いいいたします。大学で皆さんは色々なことを学び、そして多くの友人も出来たでしょう。様々の貴重な体験や思い出を持ってこれから社会に出て活躍して下さい。現在、大学教育の質の保障や質の向上の必要性が厳しく言われ、全国の大学がそれぞれ真剣に取り組んでいます。世界はグローバル化の方向に益々進んでいますので、世界中の大学は他に負けないレベルの高い卒業生を送り出すための努力をしています。しかし、学問の進歩は非常に早く、大学で学んだことはすぐに古くなってしまいます。大学で学んだのはそのようにすぐ古くなる知識ではなく、考え方や考える力であったということをしっかり心にとめておいて下さい。そして安易な道でなく率先して困難に立ち向かいそれを克服して下さい。私共の琉球大学は何を目指し、どのような理念を持ち学問を発展させているか、皆さんはしっかりと身につけたことでしょう。各学部学科はそれぞれの目標に向け学問を育て今日に至っていますが、そこでは専門的な多くのことを学んだと確信しています。

現在の世界には、グローバル化と新自由主義経済システムのもとに著しい格差や民族間の紛争、難民さらに環境破壊などの多くの問題が生じています。琉球大学は、今日まで蓄積してきた学知をもとに従来の知の枠組を再構築し南の柔らかな智、しなやかな思想を作りつつあります。沖縄はこれまでも、そしてこれからも広く豊かな海でつながるアジア太平洋域の中心に位置し、独自の文化を発展させて来ています。しかし、他方沖縄をとりまく地域、沖縄を含めた海でつながる地域を境界地域として周縁化することが一般的に行われる傾向にあります。私共の琉球大学はそれとは異なる学や思想を育てています。かつて、ジェイムズ・クリフォードはハーバード大学から出版した「ルーツ」という著書の序文のなかで周縁・マージンと中心性について論述し、グローバルや普遍性ではなくトランスローカルという概念を用いています。私共はこのようなジェイムズ・クリフォードの考えにそのまま賛成してはありませんが、広い海を含むアジアからの視点の重要性を考え、大学に国際沖縄研究所を作り、今年から国際学術雑誌である International Journal of Okinawan Studies を発刊しました。文系の学部を中心に人の移動、human migration もしくは displacement という大きなプロジェクト研究も進めています。理科系学部が中心となった防災研究や珊瑚地域の生物多様性の研究などいずれもこれまでの先進国の視点で作ってあげてきた陸からの見方ではなく、海からの見方を示し、これまでの世界観や世界認識に大幅な変換をせまるものです。このような地域と国際性という琉球大学の目標を皆さんも学んだと思っています。皆さんは琉球大学で学んだ考える力、真実を見る目や見方を大切に、人や生き物そして環境を大切にす南の柔らかな学智を身につけて社会で活躍することと思いい期待しています。今日、世界的不況が問題になっていますが、これからの皆さんの長い人生には色々な困難や成功や喜びなどがあると思います。しかし、常に明るく前向きに対処し琉球大学で学んだことを誇りにして下さい。皆さんの門出を心からお祝いいいたします。

平成22年3月23日
琉球大学長
岩政 輝男